

## コハクチョウの高圧送電線衝突と落下衝撃

沢田 隆

925-0047 石川県羽咋市御坊山町 13-3, VYU04102@nifty.ne.jp

高圧送電線落鳥事例から個体へ及ぼすダメージ

石川県邑知潟に於ける1992年度～2004年度シーズンのコハクチョウ高圧送電線落鳥90例から、衝突環境の相違が起因する損傷程度を比較した。

### 事例1)

発生日：2005年2月24日14:00頃。

気象：小雨、風速5～10m(落下地点からは飛翔方向からの追い風とみらる)。

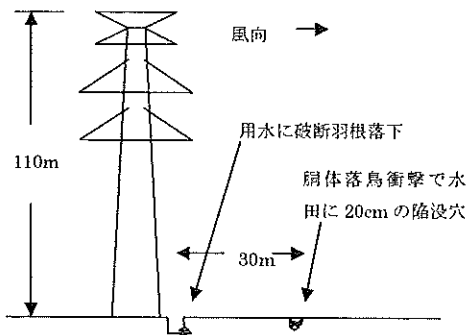
衝突防止対策：蓄光フラップ(装着の約8割が落下消失)、スパイラルロッド。

損傷部位：衝突衝撃で左次列風切羽根先端部で破断、落下圧死と見られる。

衝突箇所：高さ100mのグラウンド線に羽毛付着から衝突箇所と判断。

飛翔形態：飛翔速度は追い風で衝突時は60km/h以上とみられる。

落下地点：湿田、人の歩行跡は5cm程度の深さだが、落下衝撃で約20cm埋没。



落下衝撃で田に埋没、頭部は左斜め下の穴跡に。

### 事例2)

発生日：2004年2月19日08:18分。

気象：晴天、無風。

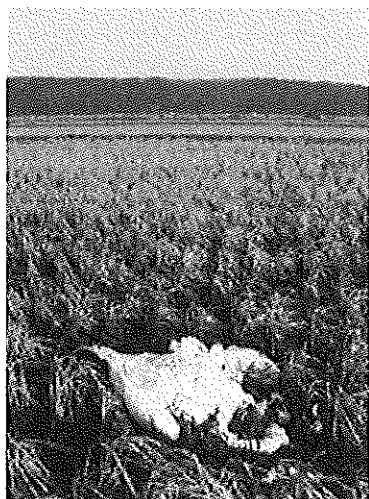
衝突防止対策：蓄光フラップ、スパイラルロッド。

損傷部位：外傷確認出来ず、1羽は頸椎骨折と獣医診断、他1羽は未診断。

衝突箇所：高さ80m付近の送電線に接触、2羽同時落下。

飛翔形態：送電線回避飛翔後リターン、斜め方向から衝突、速度は40km/h程度。

落下地点：衝突箇所から石の自然落下と似る速度で真直下へ落ちる。乾田状で人の歩行跡は3cm程度の深さだが、落下衝撃で10cm程度の陥没穴。500m隔てた視認場所でも田への衝突音が聞こえた。2羽とも即死。



10cm程度の落下穴の中で即死(成鳥)。



隣には幼長も即死。

### 事例3)

発生日：1993年2月27日09:15分。

気象：晴天、無風。

衝突防止対策：蛍光リング(赤、黄色交互)

損傷部位：鼻部陥没衝突痕、片羽根垂れる。

衝突箇所：高さ80m付近の送電線。

飛翔形態：送電線通過速度は40km/h程度。

落下地点：衝突箇所からきりもみ状で湿田に落下。保護するも数日後に死亡。

### まとめ

気象条件、飛翔環境により送電線への衝突衝撃は様々だが、落鳥90例中、水田に落下、保護により治癒、又は保護施設で死亡は4例、即死や死亡で発見77例だった。

水上への落鳥は、治癒、又は保護施設で死亡の7例のみ、即死は確認出来なかった。

その他、配電線への衝突2例はケガのみ治癒。

事例からは、田への落下衝撃は送電線衝突衝撃にも増し、個体の生死にかかわるものと推察される。